

南方熊楠賞について

南方熊楠翁は慶応3年（1867）4月15日和歌山市に生まれ、幼時より天才の名をほしいままにし、東京大学予備門（現東京大学）に入学、2年後退学渡航、米国各地、西インド諸島を彷徨、菌類・地衣類を採集、後英国に渡り大英博物館に迎えられ、「ネイチャー」「ノーツ・アンド・クィアリーズ」に多くの論考を発表、その学識の深さは古今東西にわたり碩学の名をほしいままにする。

明治33年（1900）帰国、明治37年（1904）より田辺に居を定め、粘菌・菌類の研究に没頭、数千点に及ぶ彩色図を完成するとともに、自宅の柿の木から新種の粘菌を発見、ミナカタの名を冠せられた。

また、エコロジー（エコロジー＝生態学）という言葉を使い、明治政府が推進した神社合祀に反対するなど自然保護に尽力した。

民俗学関係については、日本民俗学の父といわれた柳田国男氏をしてその学殖の豊かさに驚かしめ、種々の点につき質問を受け、回答したものが往復書簡集として発行されている。

昭和4年（1929）、昭和天皇を神島に迎え進講、昭和16年（1941）永眠した。

田辺市と南方熊楠邸保存顕彰会（現：南方熊楠顕彰会）では、翁没後50周年記念事業を計画、種々様々な顕彰事業を実施した。

平成2年10月20日、南方熊楠翁没後50周年記念式典を開催し、市民の誇りとして翁の偉業を称え「南方熊楠賞」を制定した。

この賞は、国内外を問わず翁の研究対象であった民俗学的分野、博物学的分野の研究に顕著な業績のあった研究者に贈り、また特別賞として翁の研究に顕著な業績のあった研究者に、それぞれ賞状（塩谷聰泉氏揮毫）及びトロフィー（故 建昌覚造氏制作）並びに副賞（本賞 100万円、特別賞 50万円）を贈るものである。

表彰は、例年、年一研究者とし、人文部門、自然科学部門から交互に選考をするものであるが、本年は自然科学部門よりの受賞者選考となった。

第21回南方熊楠賞の受賞者選考については、自然科学の部選考委員会において慎重に受賞者を審議、選考し、南方熊楠賞運営協議会において第21回南方熊楠賞の受賞者が河野昭一氏に決定した。

【第21回南方熊楠賞受賞者】

かわの しょういち
河野 昭一 氏

京都大学名誉教授



生年月日 1936年（昭和11年） 1月 14日

略 歴

- 1936年 北海道室蘭市生まれ
- 1959年 北海道大学農学部農業生物学科卒業、大学院修士課程へ進む
- 1960年 モントリオール大学（カナダ）理学部大学院（植物学）修士課程に編入
- 1961年 同修士課程修了、博士課程へ進む
- 1962年 博士論文審査合格、モントリオール大学大学院よりPh.D
（Doctor of Philosophy in Biology：博士号）授与
- 同 年 ウィスコンシン州立大学（アメリカ）PDF研究員(米国科学財団給費研究員)
※PDF：Postdoctoral Research Fellow
※米国科学財団：NSF（アメリカ国立科学財団、全米科学財団）
- 1963年 ニューヨーク植物園PDF研究員
- 1964年 東京大学理学部植物学教室（植物分類学講座）PDF研究員
- 1967年 清和女子短期大学専任講師
- 1968年 富山大学教養部助教授
- 1974年 富山大学教養部教授
- 1984年 京都大学理学部植物学教室（植物分類学講座・担当教授）
- 1995年 京都大学理学部植物学教室（大学院担当教授）
京都大学総合博物館館長（1997-1999）
- 1999年 退官

現在 京都大学名誉教授（1999年）
米国スミソニアン研究所 Regents Fellow（1991年）
米国植物学会名誉会員（1997年）
植物分類地理学会名誉会員（1997年）

第21回南方熊楠賞受賞者

氏名	河野 昭一 (かわの しょういち)
生年月日	1936年(昭和11年) 1月 14日 [出身地:北海道]
略歴	<p>1936年 北海道室蘭市生まれ</p> <p>1959年 北海道大学農学部農業生物学科卒業、大学院修士課程へ進む</p> <p>1960年 モントリオール大学(カナダ)理学部大学院(植物学)修士課程に編入</p> <p>1961年 同修士課程修了、博士課程へ進む</p> <p>1962年 博士論文審査合格、モントリオール大学大学院よりPh.D (Doctor of Philosophy in Biology: 博士号) 授与</p> <p>同年 ウィスコンシン州立大学(アメリカ)PDF研究員(米国科学財団給費研究員)</p> <p>※PDF: Postdoctoral Research Fellow ※米国科学財団: NSF (アメリカ国立科学財団、全米科学財団)</p> <p>1963年 ニューヨーク植物園PDF研究員</p> <p>1964年 東京大学理学部植物学教室(植物分類学講座)PDF研究員</p> <p>1967年 清和女子短期大学専任講師</p> <p>1968年 富山大学教養部助教授</p> <p>1974年 富山大学教養部教授</p> <p>1984年 京都大学理学部植物学教室(植物分類学講座・担当教授)</p> <p>1995年 京都大学理学部植物学教室(大学院担当教授) 京都大学総合博物館館長(1997-1999)</p> <p>1999年 退官</p> <p>現在 京都大学名誉教授(1999年) 米国スミソニアン研究所 Regents Fellow(1991年) 米国植物学会名誉会員(1997年) 植物分類地理学会名誉会員(1997年)</p>
学位	Ph.D (Doctor of Philosophy in Biology)
学会活動等	<p>●学会活動(役員)</p> <p>種生物学会会長(1987~1991)</p> <p>国際植物系統分類学会(Biosystematics学会: IOPB)副会長(1987~1989)</p> <p>国際植物系統分類学会(Biosystematics学会: IOPB)会長(1989~1992)</p> <p>国際植物系統分類学会(Biosystematics学会: IOPB)評議員(1995~)</p> <p>国際植物系統進化学会評議員(1980~1985)</p> <p>日本植物学会評議員(1976~1979、1981~1983、1985~1987、1989~1998)</p> <p>日本生態学会評議員(1980~1982、1985~1987)</p> <p>日本雑草学会評議員(1980~1982)</p> <p>日本生態学会自然保護委員会委員(1987~)</p> <p>●学会誌編集委員</p> <p>種生物学会・機関誌(<i>Plant Species Biology</i>)編集委員長(1986~1998)</p> <p>種生物学会・機関誌(<i>Plant Species Biology</i>)編集顧問(1999~)</p> <p>英国<i>Functional Ecology</i>誌編集委員(1986~1998)</p> <p>ヨーロッパ進化学会誌(<i>Journal of Evolutionary Biology</i>)編集委員(1986~1990、1995~1998)</p> <p>植物分類地理学会誌編集委員(1984~1990)</p> <p>植物地理・分類学会誌編集委員(1982~1998)</p> <p>植物系統進化学会(オーストリア・ウイーン)<i>Plant Systematics and Evolution</i>誌編集顧問(1980~1997)</p>

	<p>ノルウェイ植物学会誌 <i>Nordic Journal of Botany</i> 編集顧問 (1993～) 日本植物分類学会誌編集委員 (1986～1990)</p> <p>●所属学会 日本植物学会、日本生態学会、日本遺伝学会、個体群生態学会、日本植生学会、日本植物分類学会、日本雑草学会、アメリカ生態学会、国際植物分類学会、種生物学会</p> <p>●NGO等 NPO法人地球環境大学理事長 NPO法人立山自然保護ネットワーク理事長 日本の天然林を救う全国連絡会議代表 国際自然保護連合生態系管理委員会・北東アジア担当副委員長</p>
<p>主要著書</p>	<p>『種と進化 ー適応の生物学』 三省堂新書 1969年 改訂版 『種と進化』 三省堂選書 1977年 『種の分化と適応 ー植物の進化生物学II』 三省堂 1974年 『立山路の花しるべ』 (共著) 巧玄出版社 1977年 『日本アルプスの花と蝶』 創土社 1979年 『植物の生活史と進化I 雑草の個体群統計学』 (編) 培風館 1984年 『植物の生活史と進化II 林床植物の個体群統計学』 (編) 培風館 1984年 『植物の論理と戦略』 (共著) 平凡社 1987年 『植物の世界 (Newton Special Issue) 1号、2号、3号、4号』 (監修・執筆) 教育社 1988-89 『フィールドウォッチング (Field Watching) 1号、2号、3号、4号』 (監修・執筆) 北隆館 1989-91 『Biological Approaches Evolutionary Trend in Plants.』 Academic Press. 1991年 『世界のエンレイソウ (植物モノグラフ・シリーズ1)』 (編) 海遊舎 1994年 『アリのお花畑 森の新聞3』 フレーベル社 1996年 『植物生活史図鑑1 春の植物I』 (編) 北大図書刊行会 2004年 『植物生活史図鑑2 春の植物II』 (編) 北大図書刊行会 2004年 『植物生活史図鑑3 夏の植物I』 (編) 北大図書刊行会 2007年</p>
	<p>その他、著書・訳書・分担執筆・共著等多数。</p>
<p>論文</p>	<p>Kawano, S. 2009 “Life-history monographs of Japanese plants. 13: <i>Lycoris sanguinea Maxim. (Amaryllidaceae).</i>” <i>Plant Species Biology</i> 24: 139-144.</p> <p>Takasu, H. and Kawano, S. 2009 “Life-history monographs of Japanese plants. 12: <i>Asarum caulescens Maxim. (Aristolochiaceae).</i>” <i>Plant Species Biology</i> 24: 61-67.</p> <p>Kitamura, K., Takasu, H., Hagiwara, S., Homma, K., O'Neill, Whigkham, D. F. and Kawano, S. 2008. “Demographic genetics of American beech (<i>Fagus grandifolia Ehrh.</i>) IV. <i>Development of genetic variability and gene flow during succession in a coastal plain forest in Maryland.</i>” <i>Plant Species Biology</i> 23: 159-173.</p> <p>Kawano, S. 2008. “Life-history monographs of Japanese plants. 11: <i>Polygonum thunbergii Sieb. et Zucc. (Polygonaceae).</i>” <i>Plant Species Biology</i> 23: 222-227.</p> <p>Kawano, S., Masuda, J. and Hayashi, K. 2008. “Life-history</p>

monographs of Japanese plants. 10: *Fritillaria koidzumiana* Ohwi (Liliaceae)." *Plant Species Biology* 23, 51-57.

Kawano, S., Masuda, J. and Utech, F. H. 2007. "Life-history monographs of Japanese plants. 9: *Helonias orientalis*" *Plant Species Biology* 22: 231-237.

Ohara, M., Tamura, M., Hirose, T., Hiei, K. and Kawano, S. 2007. "Life-history monographs of Japanese plants. 8: *Polygonatum odoratum* var. *pluriflorum*." *Plant Species Biology* 22, 59-64

河野昭一、2006。「危機に瀕した日本の天然林—今、日本が世界に誇る天然林は、無定見な林野行政によって壊滅に直面している—」北海道の自然、第44号：2-9

Ohkawa, T., Kitamura, K., Takasu, H. and Kawano, S. 2006. "Genetic variation in *Fagus multinervis* Nakai (Fagaceae), a beech species endemic to Ullung Island, South Korea." *Plant Species Biology* 21: 135-145,

Ohara, M., Narumi, T., Yoshizane, T., Okayasu, T., Masuda, J. and Kawano, S. 2006. "Life-history monographs of Japanese plants. 7: *Cardiocrinum cordatum* (Thunb.) Makino (Liliaceae). *Plant Species Biology* 21: 201-207.

Ohara, M., Araki, K., Yamada, E. and Kawano, S. 2006. "Life-history monographs of Japanese plants. 6: *Convallaria keiskei* Miq.(Convallariaceae)." *Plant Species Biology* 21: 119-126.

※著者（研究者）、発行年、“題名”、掲載紙名、号、頁

その他、論文三百数十本

第21回南方熊楠賞受賞者 河野昭一氏 選考報告

第21回南方熊楠賞選考委員会

委員長 菊沢 喜八郎

河野昭一氏は1936年北海道に生まれ、中学生・高校生時代は植物採集に明け暮れ、北海道大学農学部農業生物学科では植物の分類、群落の記載と分類等を学び1959年に卒業した。その後カナダ・モントリオール大学大学院に編入、1962年には同博士課程を修了している。その後ニューヨーク植物園研究員などを経て、1968年富山大学助教授、教授を務め、1984年から京都大学教授、1999年定年により退官するまで植物生態学、植物系統分類学の研究・教育に専念するとともに、自ら「種生物学研究会」（のちに「種生物学会」に改称）を立ち上げ、数多くの研究者を育て上げるとともに、機関紙「種生物学研究」「Plant Species Biology」を刊行し、数多くの論文を発刊した。後者はのちにこの方面の著名国際学術雑誌に発展し、植物の種生物学の発展に大いに寄与した。京都大学在職中は京都大学博物館の設立に奔走し、設立後は京都大学総合博物館長を務めた。

京都大学退官後は、日本生態学会自然保護専門委員会委員、国際自然保護連合生態系管理委員会・北東アジア担当副委員長、NPO法人地球環境大学理事長、日本の天然林を救う全国連絡会議代表などとして、日本の自然、特に中池見湿原の保護、各地の国有林における不法伐採の摘発と保護等に大活躍している。その様子は神社合祀に反対し、活動した南方熊楠翁を髣髴とさせるものである。

河野氏の研究の特色を一言で述べるならば、植物の種の生活の重視と生活史の綿密な記載である。河野氏が対象としたのは林床植物、カタクリ、ヒメニラ、フクジュソウ等の植物である。たとえば、河野氏が綿密に調べられたカタクリを例にとると、種子から発芽した芽生えは線状のか細いもので、2週間で地上部は消えうせる。翌年は少し大きな葉を出し、さらに翌年は葉が大きくなる。数年後成熟した葉を2枚出し、この段階で開花にいたる。開花まで順調に行っても7~8年はかかるが、その途中で何らかの事故により死滅するものや、大きくなれず小さな段階に逆戻りする場合もある。河野氏は森林の林床に永久調査区を設定し、植物の生育段階とそれに伴う数の変化を長期間にわたって調べ上げ、それぞれの植物種がさまざまな環境に適応して、多様な生活史をもつことを見事に示したのである。

河野氏は自ら先頭にたって生活史の調査を行うとともに、数多くの若手研究者を育て、研究を重層的に発展させている。その成果は刊行中の「植物生活史図鑑」に集大成されようとしている。従来の植物図鑑が、植物の形態を図示したものにとどまるのに対して、この図鑑は各種の地理的分布、形態に加えて生活史を記載した画期的な図鑑であり、もちろん世界にその例を見ない。

選考委員会は、河野氏の達成された業績を顕彰するとともに、自然保護にかける熱意と行動力に敬意を表し、さらには生活史研究の完成に向けて努力を続けられている同氏を激励する意を加えて、同氏を第21回南方熊楠賞受賞者に選考した。

第21回 南方熊楠賞 受賞コメント

河野 昭一

南方熊楠翁を記念する賞を頂けることは、正に望外の喜びであると同時に、まだまだ“努力しなさい”という励ましと感じ入っている次第です。

日本が未だ西欧に越して対抗出来るだけの「科学的知識、技術の発展」が遅れていたとは言え、江戸時代に入り「本草綱目」を始め、優れた自然史を扱った書物が、鋭い観察力をもって編纂された冊子として刊行されていたことから、日本人なりの自然観を伺い知ることができます。

然しながら、熊楠翁は、それ以前より早い時代より、日本の自然のもつ卓越した“多様性”の価値を認識し、纏めた冊子、南方熊楠邸蔵書目録をみても、如何に幅広い視野をもって、自然から学び、それを具体的に認識していたかを伺い知ることができます。

この度、私、河野昭一が、南方熊楠翁を記念するこの賞を頂くことは望外の喜びであると同時に、自らも“さらに努力を惜しまず、自然から学び、人のため世のため、そして日本の為、強いては世界、人類にとって役立つ貢献を、これまで以上研鑽、努力しなさい”、という激励がこもったご配慮として、心中にしっかりとその思いを刻まねばと思っている次第です。有り難う御座いました。

第21回南方熊楠賞授賞式

日 程 平成 23 年 5 月 7 日 (土) 午後 1 時 30 分より
会 場 紀南文化会館 小ホール
定 員 200 名
1. 授賞式
2. 記念講演
演 題 「花に魅せられ50年 ―その挫折と遍歴の歴史より―」
講 師 第21回南方熊楠賞受賞者 河野 昭一 氏

南方熊楠賞受賞記念パーティー

日 程 平成 23 年 5 月 7 日 (土) 午後 5 時より (予定)
会 場 南方熊楠顕彰館
定 員 60 名
会 費 3,000 円 (要申込み)

※授賞式、記念パーティーにご参加ご希望の方は、事務局までお申込みください。
後日入場チケットをお渡しいたします。
なお、定員になり次第締め切りますので予めご了承ください。

○お申し込み先 〒646-0035
和歌山県田辺市中屋敷町36番地
南方熊楠顕彰館内
南方熊楠顕彰会事務局
Tel 0739-26-9909
Fax 0739-26-9913
E-mail minakata@mb.aikis.or.jp